



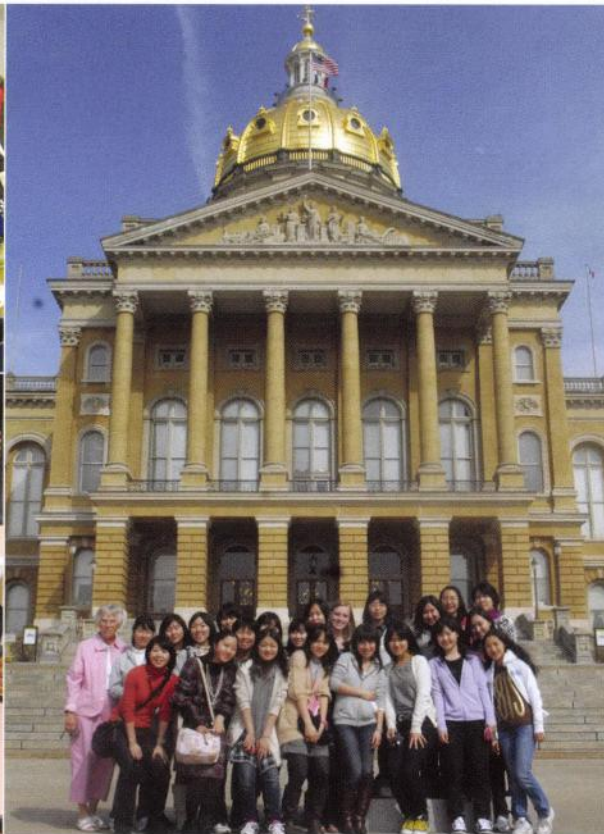
FÛ

EN

# 楓園

## CONTENTS

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 1 — 特集 東洋英和の国際交流 | 13 — この人に聞く 島津サシャ      |
| 3 — 小学部          | 15 — 聖書の言葉・英和探訪        |
| 5 — 中高部          | 16 — 行事報告 3月～5月        |
| 7 — 大学 大学院       | 17 — 大学 大学院NEWS・学院NEWS |
| 10 — 幼稚園         | 18 — 同窓会NEWS           |
| 11 — かえで幼稚園      | 19 — 英和の植物通信・お知らせ      |
| 12 — 同窓会・母の会     |                        |



### ■ 中高部 アメリカ短期留学

高校生20名が参加した短期留学の様子。市内見学やホームステイなど多様なプログラムを通して、英語運用力を培います。

●中高部母の会 「ミス・ハミルトン メモリアル基金」  
による活動  
[カナダ].....▶ p.12



●学院 創設者ミス・カートメルの特典を受贈  
[カナダ].....▶ p.17



●学院 「カナダ婦人宣教師物語」刊行  
英語版も刊行予定  
[カナダ]

●中高部 カナダ語学研修旅行  
[カナダ]

●同窓会 東部トロント支部  
[カナダ].....▶ p.12

●大学 「保育子どもフィールドワーク」  
ハミルトン市センテナリー教会  
礼拝出席、交流  
[カナダ]

●大学 留学協定校  
留学推薦校  
海外英語実習  
[カナダ] [アメリカ]

●小学部 学習旅行  
[韓国].....▶ p.3-p.4



●大学 交換留学生  
[韓国].....▶ p.9



●大学 留学推薦校  
[オーストラリア]

●中高部 短期留学  
[アメリカ].....▶ p.5-p.6



●大学 交換留学生  
[アメリカ].....▶ p.9



●大学院 大学院生がインターンとして  
ユニセフで活動  
[ラオス].....▶ p.9  
国際貢献プログラム  
[ラオス].....▶ p.9



●大学院 大学院生がインターンとして  
国際協力NGOで活動  
[カンボジア].....▶ p.9

●同窓会 ニューヨーク支部  
ワシントンD.C.支部  
サンフランシスコ支部  
ロサンゼルス支部  
[アメリカ].....▶ p.12

# 東洋英和の国際交流

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。  
そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、  
また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。

使徒言行録 1章8節

東洋英和はカナダの婦人宣教師によって創られた学校でしたので、開校当時から西洋の先生方の存在が当たり前でした。一日の授業の半分は英語しか使わなかったり、寄宿舎での生活は日本にいなから外国に暮らすようだったり…英語を徹底的に学ぶことによって社会的にも国際的にも活躍できる女性を育てていくことが教育の大きな柱でした。

現在の東洋英和は当時とは様変わりしていますが、学院各部で今でもさかんに国際的な交流が行われています。今回の楓園ではさまざまな国際交流の取り組みについてご紹介いたします。

- 大学 国内外歴史文化研修  
[デンマーク] .....▶ p.7



- 同窓会 ロンドン支部  
[イギリス] .....▶ p.12

- 大学 「保育子どもフィールドワーク」  
[ドイツ] .....▶ p.8
- [ルーマニア] .....▶ p.8



- 大学 交換留学生  
[イタリア] .....▶ p.9、p.15



- かえで幼稚園  
コイノニア・アカデミーとの交流  
[ケニア] .....▶ p.11



- 幼稚園 ACEF運営による  
寺子屋づくりに協力  
[ Bangladesh ] .....▶ p.10
- 中高部 ACEFスタディツアーに  
高校生2名が参加  
[ Bangladesh ]



- 大学 卒業生が平和部隊の  
一員として活動  
[ウクライナ]  
.....▶ p.13-p.14



- 大学 留学協定校  
[トルコ]

- 大学 交換留学生  
[タイ] .....▶ p.15



- 大学 世界青年の船  
[ドバイ アラブ首長国連邦] .....▶ p.8



小学部部长 山本 香織

です。小学生の時にこの思いを心に抱いた子どもたちが築く未来は、チョン牧師も語られたように、神に喜ばれるものになるのではないのでしょうか。

3日間同行してくださった通訳も兼ねた現地女性ガイドは、ガイドとして優秀だけでなく実にハートのある方でした。単なる観光案内を超えた内容のある車内でのお話に、子どもたちも私たちも心を打たれました。彼女が最後に、これからの世界の中心はアメリカではなくアジアであり、国籍を選んで生まれたのではない自分たちが、一つになることこそ大切だと語りました。引率教員たちから始まった拍手がバスの中を震わせ、今回の旅の意義深さを感じたひと時でした。

様々な面でわが校の何十歩も先を行っていると思われる Ewha との交流から、これまでも多くのことを学びました。今回初めて訪問することができて、改めてこの交流関係に感謝しています。今後の交流のあり方についてはまだ検討中ですが、旅行全体から得たものも含めて、素晴らしい体験ができるこの行事を、さらに発展させていきたいと考えています。



ソウルチェイル教会で韓国語の讃美歌を披露



景福宮にて



キムチ作り体験（それぞれ真空パックにしてお土産に）

### 児童の感想から

- \* 食事のマナーや韓国の歴史について事前学習をし、景福宮や国立民族博物館に行ってみると、韓国と日本の悲しい歴史などをもう一度よく考えることができました。これからは悲しい歴史でなく、うれしい歴史をつくりたいです。
- \* トイン市場を歩きました。とても大きいカボチャ、キンパ、イカキムチなどおいしそうなお物がたくさんあり楽しかったです。虫も売っていました。魚や貝のにおいは少しきつかったです。
- \* 料理スタジオでキムチとタシクを作りました。たまたま食べるキムチにこんなに手間がかかるなんて思っていなかったのでびっくりしました。これからはもっと味わって食べなくてはと思いました。
- \* Ewhaの小学校を訪問し、自分のペンパルと会いました。とても話しやすく、やさしい子でした。私が見えない英語でもジェスチャーで表現してくれました。これからはずっと友だちでいたいです。
- \* Ewhaはとても広い学校でした。学校案内をしてくださったとき、放送室に行きました。本格的なニュースができるようになっていて、うらやましく思いました。給食の時間に、文通の相手の子と韓国のドラマや日本のアニメの話などをして、とても盛り上がりました。
- \* 韓国の教会で礼拝をしました。とてもやさしそうな牧師先生で、韓国と日本の子どもたちの未来について語ってくださいました。私も同じ考えです。
- \* 今、私たちがEwhaの人たちと仲よくすることで、将来の韓国と日本がとても仲よく、互いに助け合えるような良い社会ができるのかなと思いました。

### 「おうちの方の言葉」から

- \* 歴史的関係も深く、ひと昔前は近くて遠い国と言われた韓国。忘れてはいけないこと、変えていかなくてはならないこと両方を、娘世代が担っていくにあたり、貴重な経験をさせていただいたと感謝しております。国は違っても人の心の温かさは同じだと、無意識ながら理解していることを、帰国直後の穏やかな娘の表情から感じることができました。先生方、添乗員の方、韓国の皆様、本当にありがとうございました。
- \* 旅行の前、韓国語のノートを自分で作ったり、学校で習った韓国語の讃美歌を何も見ないで歌えるまで練習していました。言葉や環境が違う人とも、仲よくなりたいたいという生けん命な気持ちがあれば、心が伝わるということ学んだ旅行だったのではないのでしょうか。

## 小学部 「うれしい歴史をつくりたい」と決意させた旅

Ewha 訪問を中心とする韓国学習旅行（2010年3月23日～25日）の報告

早朝の羽田空港に集まった、緊張した面持ちの5年生39名に言いました。「あなたたちは小学部史上初めて、海外での宿泊行事に行く子どもたちなのです」

本当は私の方が緊張していたのかもしれませんが。何しろついに時が実ってソウルに行くのです。英語での手紙交換から始まった梨花（Ewha）女子大学附属初等学校との交流も、足かけ7年になりました。2007年からは3年間連続でEwha側から、有志児童（毎回30余名ほど）による春休みを利用した東京旅行の折に、小学部を訪ねてくださっていました。「この次はEiwaが来てください」「今度は私たちがEwhaに行きたい」、そうした思いがようやく実現するのです。

今回の旅は、同じく神さまを信じるEwhaの子どもたちと友だちになることや、私たちの国と最も深い関係にある隣国をもっと知ることなどを目指し、春休みに5年生有志を対象に計画いたしました。（定員を限ったため、希望しながら抽選で落ちてしまった子どもたちに悲しい思いをさせたことは、今後の課題です）

せっかく行くのだからあれも見せたい、これもさせたいと、歴史遺産見学のみならず、キムチとタシク（お菓子）作り体験、パフォーマンスの「NANTA」鑑賞、スーパーマーケットでの買い物などを盛り込みました。しかし何と言っても今回の旅を英和らしくしたのは、中心であるEwha訪問と、ソウルチェイル教会での礼拝です。

梨花女子大学附属初等学校は、行き届いたご準備の感じられる心のこもった大歓迎を、学校を挙げてしてくださいました。最初は恥ずかしそうにしていた子どもたちも、交流プログラムが進み、自分の文通相手らと英語で話しながら校内を見学し、一緒に給食をいただいた後、帰る頃にはすっかり打ち解けて別

れを惜しんでいました。異なる国に生きる同年代の子どもたちとの交わりは、得がたい体験だったようです。

またこの機会にぜひ韓国の教会も知りたいと考え、日本の教会と長いこと交流を続けているソウルチェイル教会を、最終日に訪ねました。小学部の宿泊行事では必ず旅先です、朝の礼拝の場所としてお借りしただけでなく、教会のチョン牧師に説教をしていただきました。そこで先生は子どもたちに向かって、神の国である真に平和な未来のためには、日本と韓国の子どもたちが手を取り合うことが必要だ、と力強く語ってくださいました。子どもたち一人ひとりの心に響いたそのメッセージは、この旅を締めくくるのに大変ふさわしいものでした。

この内容の濃い3日間で、子どもたちは実にたくさんのことを感じました。まず多くの人に喜んで迎えられ、親切にされ、韓国の人の心の温かさを知りました。また日本と似ているようで違う韓国の文化に、新鮮な感動を覚えました。一人ひとりにはそれぞれの固有の発見があったと思いますが、とにかく共通しているのは、韓国が身近になった、好きになったということ



Ewhaで日本舞踊「サクラサクラ」を披露



Ewhaの皆さんと



初めて会うベンバルたちと給食

英語科教諭 おしだり 真弓

Study Trip to Pella

Day5~6 by Nozomi Fujii

On the fifth day, we went to Kalona, where Armish live. Armish are the people who have kept the traditional lives without electricity, wearing bright color. We visited the Kalona Historical Museum and ate Armish lunch. We learned they can choose if they want to be Armish or to have normal lives, and that their lives don't differ from us so much.



アーミッシュの伝統料理を初体験。とても美味しかったです

The next day, we visited Goal High School in Knoxville, where Mr. Timmer's sister is working. There were students who can't go to ordinary school due to personal problems. I thought they were strange before meeting them. But they didn't have changes between them and us. So, I learned though almost everyone has prejudice, it is really important not to have prejudice when seeing people.



折り紙班は「鶴の折り方」を教えました。上手にできましたか？



現地高校生と交流の様子。あっという間の2時間でした

Study Trip to Pella

Day6~8 by Joy Hosoda

Those 3 days were free days with my host family. I would like to talk about Friday night. On Friday night after school, we went roller skating. It was really strange to go roller skating, and I'm sure for you, too. In Tokyo I've never seen a place to roller skate, so I was so excited. We all wore our own skating shoes and skated for about 2 hours. Even my host brother and my host parents, too. It was so nice to see my host parents holding hands together and skate. People were skating with singing together, and jumped up if there were any chances to do. It was a big experience for me.

Study Trip to Pella

Day9~13 by Hitomi Koide

We went to Pella Christian High School for four days. We went there with our respective host sisters and attended the same classes as theirs. After classes, I waited for host mother to pick me up and came home back. In my host family, there were three boys and a little girl. I played with them board games, Japanese Origami and so on, and saw various movies.

On the last day, school was over at noon in order to prepare for Easter. To my surprise, each period was reduced to 19 minutes. The next day, at six in the morning we gathered at the school. Of course, it was still dark.

All host families also came there to see us off. After tearful farewell, our bus started for the Des Moines Airport.



ホストシスターと一緒にペラ・クリスチャン高校に通学。友達もでき、ハイスクールライフを満喫できました

ペラ短期留学をふりかえって

高2-4 染野 早紀

ペラ短期留学はシカゴ観光から始まり、都会的で華やかな雰囲気を感じた後、ペラに移動しました。ペラは小さい町ですが、とてもアットホームな感じのする温かい町で、私はこれから始まるホームステイに少しの不安を感じるとともに、より大きな期待も感じていました。

初めの数日はペラ周辺の観光をしたり、現地の学校で折り紙や茶道など、日本文化の紹介をしました。その時私は、現地の学校の方々、引率のティマー先生、忍足先生と一緒に地元のラジオ局からインタビューを受ける機会がありました。アメリカ人の印象や、日本の文化について質問され、とても緊張しましたが、交流を通じて感じたペラの人たちの優しさや、日本とアメリカの違いなどを話すことができ、貴重な体験をさせてもらって本当によかったと思います。

休日はホストファミリーと一緒に買い物に行くなどして過ごし、最後の数日はホストシスターの通うペラ・クリスチャンハイスクールへ一緒に通学して授業を受けました。時間割は毎日同じで、その中には「自習」という授業もあり、英和とは全く違うシステムに驚きましたが、生徒はとても親しみやすくユーモアがあり、学校全体がすごく明るい雰囲気でした。休み時間にはバスケの試合を観戦したり、沢山の友達と話すこともできて、とても楽しい時間を過ごせました。

今回の短期留学は、充実した楽しい時間を過ごせただけでなく、ペラの人たちの温かさや優しさに触れることができた素晴らしい経験となりました。

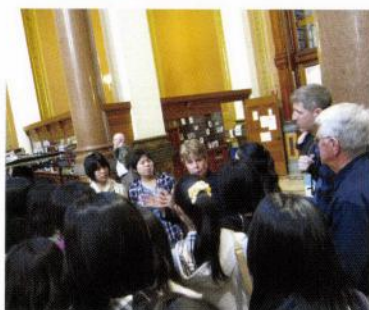
## 中高部 ペラへのアメリカ短期留学

3月21日(日)～4月3日(土)までの14日間、アメリカ短期留学が行われ、高一生徒20名、引率教員2名の合計22名が参加しました。このプログラムは高一、高二の生徒を対象に、カイル・ティマー先生の出身地であるアイオワ州ペラを研修地として、2004年より続けられているものです。その内容は大きく分けて、シカゴ(イリノイ州)での市内観光、ペラにてホームステイをしながら市内見学および現地の方々との交流、ホームステイ先の子女と共にペラ・クリスチャン高校へ通学し高校生活を体験、という三部構成になっています。今年度はさらに、ペラの隣町ノックスヴィルにある高校でも、現地高校生と初めて交流の機会を持ちました。英和生たちが漢字や童謡、折り紙などの日本文化を紹介して交流する様子は、地元のラジオ局にも取り上げられたほど充実した時間となりました。

集団での社会見学と、個人でのホームステイの両方がバランスよく配置されているこのプログラムは、春休み中の短期間ではありますが、参加生徒の英語運用力を高め、視野を広げる機会として十分にその役割を果たしています。現在は英和生がペラを訪れる一方通行の交流となっていますが、回を重ねるごとにペラにも日本に関心を寄せる生徒が増えているようです。今後は相互交流の道を模索し、より一層充実した内容とすることが期待されています。

### Study Trip to Pella

Day3～4 by Risa Masuda



アイオワ州デモインでは州議事堂を見学。熱心に説明に聞き入りました

We arrived in Iowa at Des Moines Airport at noon. It only took us about 45 minutes from Chicago to Iowa. After we arrived in Des Moines, we went to the State Capital Building. The building was gorgeous. We went to Mr. Timmer's house at evening and had delicious dinner that his mother

cooked for us. Our host families picked us up at the Timmer's, and we all went to our host family's house which we stayed for 10 days.

The next day, we had a scavenger hunt, and a windmill tour. We all had very exciting 2 days learning about Pella.



風車はペラのシンボルです。オランダ移民の町ペラには、オランダの文化があちこちに残っています

### Study Trip to Pella

Day1～3 by Moeko Ohta

On March 21, we gathered in Narita Airport. After we had a chapel at the airport, we left Japan. On arriving at O'Hare Airport, we left for the hotel and went out to have dinner. And then we returned to the hotel.

The next day, we had a tour in Chicago. We visited the aquarium, the museum and the popular art museum and there were many popular pictures of Gogh, Monet, and so on. After we enjoyed shopping, we visited John Hancock Building and saw the beautiful sight there. We had a lot of fun that day.



ジョンハンコックタワーにて。夕暮れに染まるシカゴの街は、本当に美しく感動しました



シカゴ市内観光にて。博物館の大きさに圧倒されました

The next day, we had to say good-bye to Chicago and got on the airplane to Pella. We had a lot of expectation and a little nervous.

### 2010年アメリカ短期留学 日程表 (3/21～4/3)

Day	Activity	Notes
Day 1	Departure for Chicago	成田よりシカゴに向けて出発
Day 2	Chicago	シカゴ市内観光
Day 3	Departure from Chicago to Pella	シカゴよりペラに向けて出発
Day 4	*Pella Scavenger Hunt	ペラと周辺地域にて研修
Day 5	Kalona	アーミッシュの文化が残る地域を見学
Day 6	Visit to Goal High School in Knoxville	ノックスヴィルの高校生と交流
Day 7	Free day with host families	各自、ホストファミリーと自由に過ごす
Day 8		
Day 9	Attend Pella Christian High School	ペラ・クリスチャン高校にて授業に参加
Day 10		
Day 11		
Day 12	Departure from Des Moines to Narita	デモイン空港より帰国の途へ
Day 13		
Day 14	Arrive in Narita	成田着

\*Pella Scavenger Hunt

ペラの町に関するクイズリストをもとに人々にインタビューをし、会話を楽しむゲーム

## 大学・大学院 さまざまなチャンスをお学生たちに！

今年度からスタートした大学の新・学部学科制度。ひとつの大きな眼目に「国際交流の促進」があります。国際コミュニケーション学科では希望者全員が参加できる語学研修制度を充実させ、学生たちにより多くのチャンスが開かれました。人間科学部でも専攻分野に根ざしたテーマに沿って海外研修が行われています。また、「留学する英和生」だけでなく、「留学して英和生」になる外国人学生の受け入れも、キャンパスに国際交流の風を吹き込んでいるようです。大学院では国際貢献の現場に即したプログラムが行われています。

今回はさまざまな面で展開されている大学・大学院の国際交流をご紹介します。

### 人間科学科：国内外歴史文化研修B（デンマーク）

人間科学科人間文化専攻（2010年度新カリキュラムでは総合人間学コース）の国内外歴史文化研修は、学びの場を教室から歴史の舞台や異文化の社会に移し、そこでの見学や体験を通して、より確かな人間観や社会観を形成することをめざしています。現在、国内では京都、奈良、沖縄で、国外ではデンマークで実施しています。

デンマークは今、国民の幸福感が世界一高い国として注目されていますが、一人あたり国民所得は世界3位（日本は15位）、生活格差は世界一小さい国でもあります。デンマークの国土面積は九州くらい、人口は東京都の半分弱なのに、なぜそのような国になったのか。その謎を探り、人のあり方や生き方について考えるのがデンマーク研修の目的でもあります。

この研修では、学内での事前学習の後、デンマークのエルシノア市にあるInternational People's College（IPC）の3週間のサマーコースに参加します。このコースには、デンマークの文化と社会についての英語による講義と見学のほか、

人間科学部 人間科学科 教授 川崎 末美

英会話の授業もあります。ここでは、世界中から集まった学生たちと寝食を共にして学び、遊び、語り合いますから、学生たちの英語力も上がります。そして、学生たちは、研修の目的であるデンマーク社会からの学びのみならず、親しくなった学生たちが語る彼らの国のようすからも、日本社会や日本人の考え方について見つめ直しています。

デンマーク研修は今年で3年目になりますが、参加者は1年目が11人、2年目は新型インフルエンザの影響で5人と少なかったものの、今年は10人でした。参加した学生たちはこの研修にとっても満足しており、次に参加する学生たちに、自分たちの経験や必要な心構えなどを自発的に伝えてくれています。

写真は、IPCで英会話を教えて下さっているロッド先生が、今年5月22日（土）、アジア・アフリカ旅行の途中で横浜キャンパスに立ち寄って下さった時のものです。既に社会人になったかつての参加者や今年の参加予定者も集まり、楽しい半日を過ごしました。



ロッド先生の母国カナダ、そしてデンマークと日本の国旗で歓迎しました



スタディカフェで昼食をとりながら語り合いました

## 保育子ども学科：保育子どもフィールドワーク

フィールドワークのプログラムは海外・国内で複数実施しています。短い期間ですが、フィールドでの体験を省察し学びを深める新しい形態として、本学の保育者養成のカリキュラム（2007年～）に新設されました。

### 「ルーマニア・ドイツ」プログラムに参加して

人間科学部 人間科学科保育子ども専攻3年 松下 有希

漸く少し暖かくなり始めた三月下旬、私達はルーマニア・ドイツ研修に参加するために旅立ちました。メンバーは学生6人と引率の飯島千雍子先生の合計7人という小人数でしたが、その分充実した研修が行えたように感じます。

飛行機に半日以上乗り続け、やっとルーマニアへ着きました。滞在中は首都ブカレストから車で2時間のペンションに宿泊し、Save The Childrenのレベッカさんが様々な幼稚園・学校・福祉施設に案内して下さいました。ある幼稚園を訪問した際には、民族衣装を着て伝統的な踊りを披露してくれ、別の園では特注で作ったという着物を着て子ども達が迎えてくれました。私達もルーマニアの踊りを教えていただき踊りました。民族の伝統を大切にしている国だと肌で感じる事が出来ました。また、我々日本の文化を紹介する「ジャパンデイ」という日を与えられ、ハッピーを着てソーラン節を踊り、書道やお茶、折り紙をルーマニアの方々と共に楽しみました。

研修の後半は場所をドイツへと移し、フレーベル<sup>ゆかり</sup>の地を回りました。フレーベルは世界で初めて幼稚園（Kindergarten）を創った事で有名ですが、そのフレーベル幼稚園（元の建物は現在博物館）を見学するという滅多にない機会に恵まれました。保育室は光と緑に溢れ、フレーベルの恩物<sup>おんぶつ</sup>が揃えられ、子どもが外で自由に伸び伸びと遊ぶ姿が見られました。

10泊12日という2週間にも満たない期間ではありましたが、日本にいただけでは何年かかっても経験する事の出来ない貴重な体験を沢山させていただいた研修となりました。



### 「世界青年の船」に乗船して

国際社会学部 国際社会学科 教授 滝澤 三郎

今春、内閣府主催の第22回「世界青年の船」に指導官として乗船した。この事業は、18歳から30歳の日本人と外国人（約10カ国）それぞれ140人が、6週間の船旅を共にしつつ世界の現状を学び、社会に貢献できる人材を育成することを目指す。今年の目的地はドバイ、来年はオーストラリアである。

日本人参加者は7割以上が大学生で女子学生が多い。毎回言われるようだが、日本人参加者は、外国人参加者に比べて社会問題についての知識レベルと英語能力の面でかなり劣り、正直なところやや幼く見えてしまう。

同時に、日本人参加者の多くが外国人青年の視野の広さと積極性に大きな刺激を受け、見違えるように成長するのも



「世界青年の船」の特色であり、今回もそのような参加者が何人かいた。6週間にわたって多文化環境の中で生活し、盛りだくさんな講義や自主活動に参加することで、自信をつけ、将来への方向性を見つける者が多い。人生の同伴者まで見つけるカップルも毎年何組か出るそうだが、若者らしい熱気あふれる船の雰囲気からすれば無理もない。



「世界青年の船」は、世界の現実を学ぶことで自分が変わる、という極めて教育性の高い事業であるが、東洋英和女学院大学からの参加者は殆どいなかった。今回の乗船を機会に、大学内ではこの貴重な事業の教育的活用法についての議論が始まった。来年度の「世界青年の船」には、英和生の姿が何人か見られそうである。

国際コミュニケーション学科：留学生を紹介します

李 受庭 (イ・スジョン)



私は韓国から来た李受庭です。梨花女子大学からの交換留学生で、東洋英和女学院大学で勉強しています。日本には去年の9月に来ました。初めて来た時よりは日本の生活に慣れてきて留学生活をととても楽しんでます。日本の文化や言葉は韓国と似ているところが多かったので、勉強も文化体験も楽しかったです。もうすぐこの留学生活も終わるので悲しいです。でも大学生生活の四分の一を過ごした東洋英和は、母校として忘れない思い出になると思います。

ハリソン・ミッシェル



私はアメリカ、カリフォルニア州のサンディエゴ州立大学の交換留学生のミッシェル・ハリソンです。インターナショナルビジネス学科の3年生です。去年の9月から東洋英和で1年間、日本語を勉強しています。将来は、日本とアメリカを行き来して働ける仕事に就職したいと思います。日本での生活は便利で楽しくて、友達もたくさんつくれて留学してよかったと思います。

モンティナーロ・ラウラ



私はイタリアのサレント大学の大学院生で、専門はイタリア語・英語・日本語の翻訳です。将来は翻訳者になりたいです。以前から日本に大変興味があり、日本に行く夢を持っていた私は、大学に入ってから、この夢を叶えました。日本の文化、歴史、芸術、言語などが大好きです。東洋英和に留学をし、勉強の他に、留学生イベント、ホームステイ、観光旅行など、様々ないい経験ができています。そして、日本人や留学生の友達がたくさんできて、一緒に出かけたりして、これも非常に勉強になると思っています。

大学院国際協力研究科：国際貢献

国際協力研究科 准教授 吉川 健治

国際協力研究科は、国際社会で貢献できる人材の育成が大きな目的の一つであり、国際交流の実践活動への参加を奨励している。

2009年にラオスにおいて開発ニーズ調査や関係省庁との交渉などを実施。国際協力の現場を実感する機会を得た。

また、自ら積極的に国際貢献に取り組もうという院生も現れている。09年5月から、院生の一人が、国連児童基金 (UNICEF) ラオス事務所にインターンとして勤務。ラオスでのジェンダー・教育分野での事業に取り組むとともに、国連機関の業務推進の方法などを学んだ。

また、日本の国際協力NGOにインターンとしてカンボジアの子どもたちへの支援にかかわりつつ学ぶ院生。国連ボランティア (UNV) などの公的な援助機関に応募し、学び、ともに経験を積んで、将来のキャリアアップに備える院生もいる。

これら院生の積極的な行動は、講義で展開されている科

目群からも影響を受けているようだ。国際協力の実践家が多数講義するオムニバス形式の授業から触発され、人道問題に取り組むNGOでの活動を希望したり、実践家との出会いから、国際協力の考え方を新たにすることが院生の自発的な国際交流を促していると考えられる。



ユニセフのラオス事務所でインターン活動する大辻由紀 (2009年度修了)

## 東洋英和幼稚園：バングラデシュとのかかわり

幼稚園では、幼稚園の友だち、海外の会ったことのない子どもたち等、様々な人々と「共に生きる」という姿勢を大切にしたいと考えています。

また、東洋英和の建学の精神のひとつでもある「神から愛されている隣人を愛し、隣人に仕えること＝【奉仕】」へと導くキリスト教教育の一環として、ささやかながら自分たちでできることを体験しています。

一例としては園庭にある大きないちょうの木になるたくさんの銀杏を子どもたちが拾い、洗って袋に詰めて献金を集め、“ぎんなん献金”として国内外の必要とされている人たちに捧げてきました。



降園時にお家の方でぎんなん献金をしました

この活動と並行して1992年から当時の園長、丹羽輝子先生のご紹介によりアジアキリスト教教育基金（ACEF＝エイセフ）と出会い、バングラデシュに寺子屋を作るために活動をしている方々がいらっしゃることを知りました。

子どもたちは自分たちもそのお手伝いをしようと自分の手を動かしていくうちに、少しずつ環境が異なる外国バングラデシュに興味をもっていきます。

1993年6月にはエイセフの設立を呼びかけられた、ミナ・マラカール女史が来日され、東洋英和幼稚園を訪れてくださいました。民族衣装のサリーを身に付けたマラカール先生に園児一人ひとりがお花のプレゼントを手渡し、バングラデシュの公用語であるベンガル語の挨拶を教えてくださいました。マラカール先生との交流は、バングラデシュの子どもたちをより近く感



ミナ・マラカール先生にお花のプレゼントをしました

じられる機会になりました。その後もマラカール先生の御子息であるアルバートさんたちが訪問してくださり、交流を深めることができました。

最近、大勢の方々の心のこもった“ぎんなん献金”を年長組がエイセフの事務局に届けに行きます。その際、バングラデシュのスライドを見せていただき、現地の生活を教えていただきます。ゾウが大切な動物であること、ベンガルカレーや魚、バナナ等を食べていること、雨が降ってきたらバナナの大きな葉を傘にすること、タクシーの代わりに三輪車のリキシャがあること、台風が多いこと等。木の枝で作った学校は壊れやすいのでレンガの学校を増やしたいと要望されていることにも納得していました。

年長組は、バングラデシュの代表的な飲み物であるチャイを作りお店屋さんを開き、ひよこ・年少組にごちそうしたり、エイセフで教えていただいたことを伝えたり、年長から情報が受け継がれていくこともあります。

このようなエイセフとの交流を通して、園児はこの国の人たちの生活の様子や寺子屋で学ぶ子どもたちの姿を知り、興味をもつことで、少しずつひとつの外国が身近になっているように思われます。

また、子どもたちだけではなく、お母さま方もエイセフ事務局の方からお話を伺ったり、いちょうの木献金セールなどでバングラデシュの手芸品販売のお手伝いをする等、ご家族でバングラデシュについて理解を深めご協力いただいています。

これからも隣人のことを大切に思い、一人ひとりが神様からいただいた力を使い、共に生きる仲間として協力していきたいと思えます。



いちょうの木献金セールでもバングラデシュの手芸品を販売するコーナーがあります



木の枝で作った寺子屋（学校）で勉強しているバングラデシュの子どもたち

## 大学付属かえで幼稚園

### 同じ主に愛されている子ども同士が祈り合いわかち合う交わり

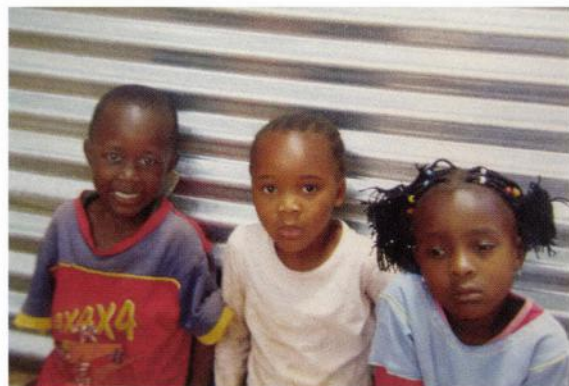
—ケニア コイノニア・アカデミーとの開かれた関係—

かえで幼稚園とコイノニア・アカデミーとの交流は、2004年の市橋さら先生との出会いから始まりました。

さら先生は、牧師でご夫君でもある隆雄先生と共に1988年よりケニアに住み、キューナ教会の働きの一つとして、スラムの子どもたちが貧困の中から希望をもって生きていけるようにとの願いからコイノニア幼稚園を2003年に開園されました。以来、7年半の時を経て、コイノニア幼稚園はコイノニア・アカデミーと名称をあらため、4歳から幼稚園2年間・小学校8年間の一貫教育の中で、キリスト教信仰に基づく教育をし、社会の中で神さまと人々に奉仕する人格と

して育てることを目指しています。

2005年、本園ではさら先生の講演に心を動かされた父母の会が、バザーの売り上げをコイノニアの働きのために献金することを始めました。また、年長組の子どもたちがアドベントに焼きためたクッキーを保護者に買っていただき、そのお金を次の年長組に引き継ぎ、月々に分けて、コイノニアの園児のひとりであるセシリーちゃんを覚えて郵便局より献金をし続けています。私たちは互いに開かれ、献金でのつながりだけでなく人と人との交流をゆたかに重ねています。



本園がスポンサーをさせていただいているセシリーちゃん（写真中央）  
—2002年生まれ 8歳—  
セシリーちゃんはかえで幼稚園の子どもたちの「もう一人の友だち」です



「誰のために生きるか」と保護者に語りかける市橋さら先生



子どもたちの礼拝の中で「わかちあう」ということを伝えて下さる市橋隆雄先生

※お二人には2005年より毎年交互に園にいらしていただき、お話をさせていただいています。



2005年 夏 本園の教師数名がケニア・コイノニア幼稚園を訪問し、ホリデースクールにて共に過ごしました



2006年 夏 ケニアよりンバタ先生が来園し、4日間に渡り「生活（遊び）から学ぶ子ども」をテーマに研修されました

2010年 夏 キゴエ先生が来園し、5日間子どもたちと共に過ごし、学び合いました



2009年 春  
コイノニアでの研修を終えた本学大学生たちがケニアでの体験を子どもたちに伝えるにきました

2009年 アドベント

自分たちで作ったクッキーを袋詰めして販売する年長組の子どもたち



2010年 7月  
研修中のキゴエ先生と一緒に郵便局へ行き、7月分の献金をケニアへ送りました

私たちの「もう一人の友だち」セシリーちゃんのことは、年長組から4歳児3歳児クラスの子どもたちへと伝え継がれ、献金のバトンタッチがされています。遠く離れた存在と主にあってつながることで与えられる恵みを感謝します。

このわかち合いの体験は、子どもたちの心の財産となると信じています。

## 同窓会 海外支部からのメッセージ

### ロンドン支部より

ロンドンの同窓会は4～5年前に初めてのお食事会を開催して、初めのうちは年4回のお食事会でしたが、このところの不景気に伴いロンドン在留の日本人の数も減り、今は年に1～2回お食事会をしています。

前は今年2月に市内のフランス料理店で昼食会を開催し、雪にもかかわらず、遠くはバーミンガムにお住まいの方も参加され、10人ほど集まりました。会員数は、連絡なしに日本に帰国されてしまう方も多いのですが、はっきりとした人数は現在、12～13名です。

イギリス ロンドン支部代表 武生 桂子

### トロント支部より

同窓会カナダ東部トロント支部はカナダ唯一の支部で、英和の創立者カートメル先生の墓地発見、そして2005年7月に先生の新しい墓石の除幕式が行われたのを記念して、同窓会支部を発足いたしました。会員は現在名簿では11人おります。

英和は、126年前（1884年）にカナダの宣教師がメソジスト教会から派遣されて創立された学校ですから、カナダとは深い関係があります。2007年に初めて飯嶋敏子さんの引率のもとに13名の同窓生がカナダを訪問され、トロントのダウントウンのコーヒーショップで歓迎茶会を持ち、お土産に手製のおにぎりをお持たせして“外国で味わうおにぎり”として大変喜ばれた事は、今でも皆様の間で語り草になっています。

世界に通じる国際語の英語を私たちは英和で小学一年生から教えられた事は幸せでした。国際交流といえは、島国であり長い間鎖国をしてきた日本人には大変苦手な事の様です。目立ってはいけな、出る杭は打たれる、どんぐりの背比べが一番気楽で良いという思いは、国際交流から程遠いのです。神様のご計画を持って一人ひとりを創られました。英和で育てられ世に出て、何が一番尊いかと言えば全能なる神様のことを教えられた事でした。同窓会本部の責任は時折聖書研究会を持ち、一人でも多くの方に救い主キリスト・イエス様の事をはつきりと忘れないように語っていただく事だと思います。

遠いカナダから 同窓生の皆様の平安を祈ります。

カナダ東部トロント支部代表 柴谷 栄子



## 中高部母の会 「ミス・ハミルトン メモリアル基金」による活動

昨年2009年11月の学院創立記念日に、東洋英和で奉職されていた宣教師リンダ・ボール先生と、学院創立者のミス・カートメルのお兄様の曾孫にあたるカーゴ夫妻がカナダから来日されたことは楓園59号でもご紹介したとおりです。ゲストのご招待を全面的に企画・実行したのは中高部母の会でした。

学院創立から100年以上にわたり宣教師を派遣し、物心両面から学院を支え続けてくださったカナダ合同教会に対し感謝を表そうと、母の会は1995年に母の会創立60周年を記念して「カナダ合同教会交流基金」を創設。元宣教師の先生方とハミルトン市の合同教会牧師をご招待して学院をご案内し、生徒を含め皆でお話をうかがうことを通して、カナダとの交流活動を実施してきました。2007年には基金の名称を「ミス・ハミルトン メモリアル基金」と変更して、学院の教育機関としての近代化を進め、最後の婦人宣教師「校長」となったハミルトン校長の名を冠することで、よりいっそう東洋英和とカナダとの深い絆を明確にしました。お母様方は協力してバザーや観劇会を催し、献金を集めるなどしてこの基金を支え、交流活動に尽くしてきてくださいました。



2009年ミス・ボールとカーゴ夫妻をお招きして、お世話くださった母の会のお母様方

そして、カナダからの最後の宣教師の先生方を日本にお招きして感謝申

し上げることができた現在、今後この基金はアジアの恵まれない子どもたちの教育環境支援に事業転換を図っていくことが検討されています。学院創立125周年記念として、ACEF運営によるバングラデシュの子どもたちのための寺子屋づくりに中高部の生徒が参加し奉仕活動の現場を体験できる事業を生徒会が計画しており、その資金面での援助を母の会の基金から行うことが考えられています。

かつてカナダ・メソジストの人々の篤い信仰と一人ひとりの献金によって東洋英和は創られ発展してきました。今度は自分たちがより恵まれない人々や国々へ向けて奉仕をしていく番です。カナダから日本、そして新たな国々へ。困っている隣人に目を向け、学院標語「敬神奉仕」を教育の場で実践していくことに、保護者の方々も大きな役割を果たしていただいています。

### ●中高部母の会によるカナダとの交流

	カナダからの来賓
1996年	ミス・ロジャース（宣教師） ルールゴ夫妻 （ミス・カートメルを派遣したセンテナリー教会の牧師）
2000年	ミス・ブラウン（宣教師） アーウィンご夫妻（センテナリー教会牧師）
2004年 （学院創立120周年）	ミス・ロジャース ミス・ブラウン ミセス・キノミヤ（元理事・評議員）
2009年 （学院創立125周年）	ミス・ボール（宣教師） カーゴ夫妻（ミス・カートメルのお兄様の曾孫）

## 島津 サシャ

Sasha Shimazu

I graduated from San Diego State University with a B.A. in International Business in 2009, and am now a Peace Corps Volunteer in Ukraine. During my third year in university, I studied abroad at Toyo Eiwa University, and was in the Department of Social Sciences. During my time at Toyo Eiwa University, I interned at the Diet, saw sumo wrestling, watched a kabuki, and overall had a wonderful experience. Studying at Toyo Eiwa University made me see the importance of living in a different country, and I am happy to have had the experience through Toyo Eiwa before moving here to Ukraine.

students here, I am exposing them to both American and Japanese cultures. Though my community knows that I am from America, they seem more interested in Japan. My students loved it when I showed them a picture of me wearing a yukata for tanabata!

Now, I am living in a small town called Bohodukiv in Eastern Ukraine. I teach English to students from 5th grade to 11th grade. I have now lived in Ukraine for 6 months, and I understand the language pretty well. Every day is interesting, and I am always learning something new. I'm also learning a different lifestyle: a lifestyle without a TV, internet, or a washing machine; a lifestyle where I heat my water on the stove for my bucket bath; a lifestyle where I buy my groceries at a bazaar (not a supermarket); a lifestyle where my monthly living allowance is \$150. I somehow lived through the -25°C weather, when the insides of my nose froze and I had tears from the cold. I have learned to wash the poop off my eggs before I use them, and to soak my carrots so the mud comes off. I have experienced Ukrainian holidays and traditions. I am lucky to be exposed to this culture, and I am working toward my goal of becoming a more global person.

シマヅ サシャ

2009年にアメリカのサンディエゴ州立大学国際ビジネス学科を卒業し、今はアメリカの平和部隊の一員としてウクライナに暮らしています。2007年8月から1年間、大学3年生の時に東洋英和女学院大学の国際社会学科に留学しました。国会等でインターンをしたり、相撲や歌舞伎を見たり、色々とても良い経験をしました。東洋英和への留学のおかげで、外国で住むことの大事さを学びました。ウクライナに赴任する前に東洋英和の留学体験が出来てありがたかったです。

介しています。地元の人には私がアメリカから来たことはわかっていますが、色々日本のことにスゴイ興味を持っています。英和の七夕パーティの私の浴衣を着ている写真を見せたら生徒たちは興奮していました！

今は東ウクライナの小さい町ボホデウヒブに暮らしています。5年生から11年生に英語を教えています。もうウクライナに来て6ヶ月以上たち、ロシア語もけっこう分かります。毎日が面白くて何か新しいことをいつも学んでいます。新しいことだけではなく、新しい生き方も学んでいます。テレビ、インターネット、洗濯機なしの生き方、お湯を沸かしてからたらい風呂に入る生活、食料品はスーパーではなくバザーで全部買う生き方、1ヶ月\$150(¥15000)で生きていく生活を学んでいます。鼻の中が凍って涙が出るほど寒い-25°Cの冬をすごせました。卵を使う前にふんを洗い流し、泥を落とすためニンジンに水をひたし、本当に新しい生き方です。ウクライナの祭りと伝統も体験しています。私はもう一つの文化を学ぶチャンスがあってとてもラッキーです。そして、世界に通じる人間になるためにがんばり続けます。

(英語・日本語ともに 島津 サシャ)



ウクライナにて。平和部隊の一員として活動しています



## 東洋英和への留学 そしてウクライナへ

I studied at Toyo Eiwa University for one year, from August 2007 until July 2008. Though I had visited Japan many times in the past (my mother's family lives in Okinawa), I have never actually lived in Japan. I thought I knew Japan and Japanese life, but my year living in Yokohama and attending Toyo Eiwa University showed me how wrong I was. This showed me how important it is to stay through all four seasons, to celebrate the different holidays throughout the year, and to experience everything in order to begin to understand another country. A person can visit many times, but only after spending a full year there can one begin to comprehend its citizens.

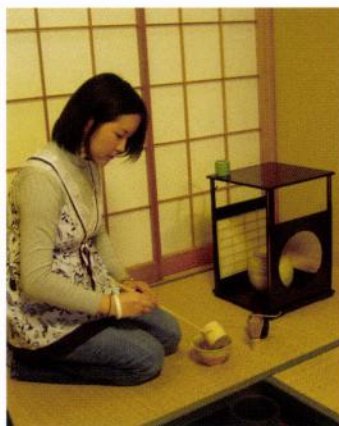
The first thing I learned is how Japanese universities work. In America, we do not have “zemi” classes, and I had no idea how to choose a “zemi” teacher. To be honest, my mother chose for me, and Professor Masuda was very kind to accept me as his student. Through the many “zemi kompas” I learned the importance of spending time with people outside of a professional setting. Now, living in Ukraine, I always go to different events and try to create meaningful relationships outside of school as well.

I am very grateful for the places I have gone and the cultural experiences I have had through the Center for International Programs. I saw sumo wrestling, watched a kabuki and a bunraku, made “otedama”, participated in a tea ceremony. Because I have seen these things, I am prepared to answer questions about Japan. By sharing my experience living in Japan with the

私は2007年8月から2008年7月の1年間、東洋英和で学びました。日本には何回も来ていましたが（母の家族は沖縄に住んでいるので）、日本には実際住んだことはありませんでした。日本と日本の生活のことを知っていると思っていましたが、横浜に住み大学に通う中で、留学中それは勘違いだったことに気がつきました。外国をわかり始めるためには4つの季節、1年間の色々の祭りを体験しなければいけない。何回その国へ行っても、丸々1年間暮らしてから初めてその国の国民をわかり始めることが出来ます。

東洋英和で最初に学んだことは日本の大学のシステムでした。アメリカではゼミ授業はないので、どうゼミを選べばいいか分かりませんでした。正直に言うと私のお母さんが選んでくれました。ゼミの増田先生は優しく私を受け入れてくれました。ゼミのコンパのおかげで学校や仕事以外でみんなと時間を過ごす大事さを学びました。今ウクライナでも、いつも地元イベントなど何でも行き、学校以外でもいい関係を作るようにがんばっています。

国際交流センターのおかげでいっぱい日本文化体験が出来ました。相撲、歌舞伎、文楽を見たり、お手玉を作ったり、茶道にも触れました。これらのことを体験出来たおかげで日本のことの質問にも答えられます。日本のことも伝えることが出来るので、私はウクライナの生徒に日本とアメリカ両方の文化を紹介

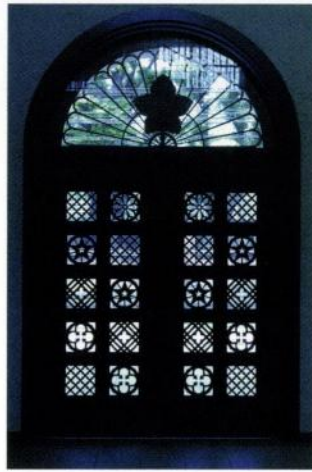


東洋英和女学院大学に留学の頃。いろいろな活動をしました

霊で祈り、理性でも祈ることにしましょう。  
 霊で賛美し、理性でも賛美することにしましょう。

コリントの信徒への手紙一

一四章一五節



キリスト教学校は、「霊で祈り、理性でも祈る学校」でしょう。古くから言われた *Pietas et scientia* (敬虔と学問) で、信仰の祈りと協同する学問が期待されます。

現代社会は信仰と学問の結びつきを一般に忘却しているように見えます。しかし文明はもう一度この結びつきを求めていると言ってもよいのではないのでしょうか。

聖書のこの言葉が記されたとき、理性を欠いた人々の「異言」が、他の人に理解されず、他者に益するものにならない事実に向面しました。現代は、それとは逆の方面が問題かもしれませぬ。理性の学問が、祈りと結びつかず、神への賛美を失っているからです。本当は、信仰による深みのある学問、「祈る理性」「歌う理性」が必要なのではないでしょうか。

東京神学大学学長

東洋英和女学院評議員

近藤 勝彦

留学サポートの心強い味方。国際交流センターを訪ねました

海外へ留学する英和生は短期・長期合わせて年間およそ二五名(二〇〇九年度)。留学をすすめている大学の方針もあり、この規模の大学としては多いそうです。大学のホームページにも盛んに留学生のレポートが掲載されていますが、留学を躊躇する大学生が多い現在の日本の中で、さすが好奇心旺盛な英和生！と感心しきりです。

大学の中央館で、留学する英和生と、英和で学ぶ留学生のサポートをしているのが国際交流センターのスタッフです。ここは二〇〇六年に開設され、四名の職員が対応に当たっています。カウンターの横には学生が資料を閲覧したり留学相談をしたりするスペースがあり、その壁には留学先の様子を伝える写真がたくさん飾られています。

授業が終わってタイとイタリアからの交換留学生が来てくれました。この二人のように大学では、



受入交換留学生の二人。タイのタネーサコーン・サンチュターさんとイタリアのモンティナー・ロウラさん



留学関係の書籍もたくさん閲覧できます



まるで家族のような存在の国際交流センターのスタッフです



壁一面の留学レポート。これから留学する学生の励みにもなります

協定を結んだ海外の大学からの一学期または一年間の交換留学生も受け入れています。国際交流センターでは受け入れの半年ほど前から留学希望者とコンタクトを取り、彼女達の日本での住まいから生活相談まで面倒をみます。歓迎会にはじまり歌舞伎鑑賞や茶道体験などさまざまな交流プログラムの企画もセンターが行ってきました。その日の話題は「七夕パーティー」。ぜひゆかたを着たい！と二人は興味津々でした。

学生達にとって人生の大きな実りとなる留学体験。しっかりとサポートしてくれている国際交流センターは何とも頼もしい存在です。

東洋英和  
幼稚園



お別れ会でのお化けの迷路のゲーム

- お別れ会 3月2日(火)  
ひよこ組・年少組がもうすぐ卒業する年長組に会を催し、お化けの迷路のゲームで一緒に楽しんだり、手作りのペン立てやふでばこをプレゼントしました。
- 第九六回保育証書授与式 3月11日(木)  
四六名の年長児が卒業しました。
- 入園式 4月14日(水)  
今年度は三八名の子どもたちを迎えました。
- 新入園母子歓迎会 4月28日(水)  
年長組のお母様方がハンドベルの演奏、布の絵本の公演、手作りのおやつをご用意くださり楽しい会を開いてくださいました。
- 歯磨き指導 5月27日(木)

大学付属  
かえで  
幼稚園



ままごと小屋の屋根のつけ替え(ワーク)

- 保育証書授与式 3月19日(金)  
イースター礼拝 4月5日(月)には、高校生八名を含む約一五〇人の卒業生との礼拝を守りました。  
在園の子どもたちとは、新年度の始業を待って、それぞれのクラスで、礼拝と卵探しをしました。
- 入園式 4月13日(火)  
ワークの日 ①4月24日(土) ②4月29日(木祝)  
五歳児父子が思いと力を合わせて、ままごと小屋の屋根のつけ替えやベンチ作り等、木工作業やペンキ塗りをしました。
- 幼稚園の外へ  
5歳児園外保育 5月13日(木)  
3歳児ピクニック 5月25日(火)  
4歳児親子遠足 6月3日(木)  
初夏の自然を感じながら、交わりの時を過ごしました。

小学部



遠足

- 卒業式 3月17日(水)  
六年間の思い出を心に刻み、七九名が小学部を巣立ちました。
- 春休みの行事  
韓国梨花女子大学附属初等学校の訪問(五年生)  
歴史探訪の旅 奈良・京都(六年生)
- 入学式 4月9日(金)  
桜の満開のもと、八〇名のかわいい新一年生が入学しました。
- 遠足 4月30日(金)  
低学年 新宿御苑  
中学年 小金井公園  
高学年 府中郷土の森
- ペンテコステ礼拝 5月19日(水)  
徳田宣義牧師先生をお迎えして、「もっとあなたらしく」と題して説教をして頂きました。
- 運動会 5月29日(土)  
二年ぶりに好天に恵まれ大いに盛り上がりました。

中高部



高二修学旅行一浦上天主堂での礼拝一

- 高等部卒業式 3月19日(金)  
三月で退任の佐藤順子部長の式辞があり、卒業生は「信仰・希望・愛」の聖歌を歌いました。
- 中学部入学式 4月7日(水)  
中一オリエンテーション前後期 5月10日(月)～14日(金)  
中一で初めての宿泊。追分寮にて敬神奉仕の精神を学びました。
- 高二修学旅行 5月10日(月)～14日(金)  
阿蘇、雲仙、長崎、福岡へ。長崎では浦上天主堂での厳かな礼拝後「被爆マリア像」を見て、被爆者の方のお話を伺いながら遺構巡りをしました。
- 高三修養会 5月10日(月)～12日(水)  
天城山荘にて八木浩史牧師(奥沢教会)の講話を聴きました。

大学  
大学院



学長就任式一村上陽一郎先生をお迎えして一

- 〈大学〉  
●卒業式 3月18日(木)  
●入学式 4月2日(金)  
●学長就任式 4月21日(水)  
礼拝堂にて村上陽一郎学長の就任式を執り行いました。
- オリエンテーション合宿 5月19日(水)～21日(金)  
千葉県富浦で行われ、両学部ともに新学長の講演があり、ゼミごとの討論などを行いました。
- 保護者と教職員の懇談会 5月29日(土)  
学長のあいさつ、教員との懇談会。その他、外部講師による、最近の就職活動の状況に関する講演があり、家族の支援について、アドバイスもありました。
- 〈大学院〉  
●学位授与式(修士課程) 3月20日(土)  
●入学式 4月3日(土)

## メディア・コミュニケーション研究所設立にあたって

本研究所は、メディアおよびコミュニケーションに関する研究・教育の促進と発展を目的として、今年度より開設いたしました。

近年、メディアをめぐる状況は大きく変化しています。例えば、パーソナルなメディアであるケータイが急速に普及し、ネットやワンセグなどの機能を充実させ、発信・受信が自在にできる電子端末メディアになってきました。実際に、ブログやツイッターが社会を動かすメディア・ツールになりつつあります。さらに、最近のiPadの流行や、電子書籍の広がりに見られるように、パーソナル・メディアの進化・革新はますます加速化しています。一方で、ネットとラジオ放送の共存や、3D映画の普及、2011年のアナログ放送の終了、紙媒体の新聞や雑誌の凋落など、マス・メディアの状況も大きく変わろうとしています。

新しいメディア状況は、生産や管理など、仕事のあり方を大きく変化させ、社会の経済構造に大きな変化をもたらしつつあります。同時に、家庭や人間関係など人々の日常生活を

大きく変化させています。本研究所では、メディア環境の急速な変化を背景に、メディアの社会的影響を人文・社会科学の視点から考察し、研究を進めていくことを目指しています。また、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・映画・インターネット・ケータイなどさまざまなメディアを介した情報を正しく理解し、利用することが、現代社会を生きる市民には必須となっています。広義のメディア・リテラシーを涵養し、啓蒙していくことも、本研究所の目的の一つと考えています。

さて、2010年の学部改組で、メディアコースが、国際社会コースと並んで国際社会学科に設置されました。この新しいコースを側面支援することは、本研究所に与えられた役割の一つですが、メディアとコミュニケーションという学際的領域において、人文・社会科学の学びを総合した教育・研究の場となることを目指しています。そのために、現在、国際社会学部の教員と人間科学部の教員が3名ずつ、運営委員（幹事）として、事業計画の策定などに当たっております。

本研究所では現在、研究助成への応募、研究所企画寄付講座、学生との共同プロジェクトなどを検討していますが、まず、研究所設立記念シンポジウム「記録映像の世界と人々―『シリーズ日本のドキュメンタリー』を語る」を9月25日（土）に、横浜キャンパスで開催いたします。ご関心のある方は、ぜひご参加ください。なお、最後になりましたが、本研究所設立にあたり、多大なご尽力をいただきました、鮑戸 弘前学長（現放送倫理・番組向上機構[BPO]理事長）に感謝申し上げます。

### 同窓生子女枠特別推薦入学試験のご案内

東洋英和女学院大学では、東洋英和女学院の大学、旧短期大学、中学部・高等部卒業生のご息女、お孫様、ご姉妹、在学生のご姉妹を対象とした入試を10月24日（日）に実施します。

資料をご希望の方は、大学入試広報課（TEL 045-922-5512）へお問い合わせください。

## 三英和懇談会が開かれました

今年もカナダ・メソジスト教会婦人伝道ミッションによって設立された学院が集う、三英和懇談会が7月24日（土）に静岡英和女学院で開催されました。山梨英和学院・静岡英和女学院の各部長・役職者とともに、本学院からも池田守男理事長・院長をはじめ各部代表者が参加し、総勢35名が集まりました。

全体会では各学院の現状と課題について報告があり、分団協議では忌憚のない意見交換がなされ、充実した時を持ちました。



## —カナダのサザランド家より寄贈されました— ミス・カートメルのトランク

今年5月、カナダのサザランド家より学院創設者ミス・カートメルのトランクをご寄贈いただきました。このトランクはミス・カートメルが育てられたサザランド家で長く保管されていたもので、先生の従姉の曾孫にあたるドン・クロス氏のご好意により、今後学院で大切に保管していくことになりました。トランクは茶箱2つ分ほどの大きさ



ドン・クロス氏とミス・カートメルのトランク

の木製で、内部はブリキか鉛の板で補強されており、側面に「M.J.CARTMELL Tokio Japan」と記されています。かつて船旅で太平洋を越えたこのトランクは、今後六本木本部・大学院棟1階の史料展示コーナーに常設される予定です。展示開始についてはホームページ等でお知らせいたします。

同窓会長就任にあたって



松本 幸恵  
さちえ

東洋英和女学院の歴代の同窓会長が会員の皆様と共に残された大切な宝物を今ここに「次の時代にお渡し下さい」と託されたようで大変敬虔な思いであります。

この二月に刊行された「カナダ婦人宣教師物語」の序文の池田守男理事長・院長のお言葉の中に、ある同窓生の方からの提案が契機となり、この本が誕生したことが記されていきました。ミス・カートメルの信仰が神様に用いられた生まれたこの東洋英和が、まさに今も祈り祈られて歩む学院であることが証され誇らしく思われました。プロテスタント宣教一五〇年、東洋英和女学院創立一二五年を記念した時にこの物語を私達がしっかりと受け止め、同窓会としても行く道を灯す標としていきたいと力づけられました。

同窓会も歴史と共に、今の六つの各部同窓会が全体同窓会を組織し、それぞれの会が独自の活動しながら協力して学院と連携した支援や、同窓生の豊かな交わりを展開しています。大学が二〇周年を祝い楓美会の同窓生が七千人を超え、社会人の大学院修了生には男性もおられます。皆様のニーズにお応えできるよう、歩みを進めて参ります。

神様の御導きと皆様のお支えを心より願うものでございます。

同窓会長退任にあたって



石川 和子

二〇一〇年度総会で松本幸恵さんが満場の拍手を以って新会長として承認され、八年間の私の役目が終わりました。平穩に見える学院同窓会も時代の波を受け、時に皆で頭を悩ませつつ対応策を考えるような問題にもぶつかりましたが、六つの各部同窓会のご協力と多くの方々のお支え、後方で温かく見守り、困っている時には手を差し伸べて下さった母校のお陰で、無事に次世代にバトンタッチ出来ました事を心から感謝しております。

又、この八年間、卒業生として学院とかかわらせて頂き、一二五年の歴史あるミッションスクールとしてキリスト教の信仰を守って来た東洋英和で学んだ同窓生達が自然に身につけている「英和らしさ」に改めて気付きました。これこそ卒業生の誇りであり、目に見えない英和の校章ともいえる素晴らしいもの。同窓生皆が心の中に持っている「英和らしさ」がひびき合い、心を一つにして同窓会活動を活発にし、母校発展の為に役立てる事を願っております。

二〇一〇年度同窓会総会

— 六月五日(土) —

六本木校地で六つの各部の同窓会が同じ日に総会を開き、午後から全体で東洋英和女学院同窓会の総会を持つようになってから四回目の今年、新マーガレット・クレイグ記念講堂にて「神を愛し人に仕える」精神が守られるようにとの祈りの後、同窓生村岡花子氏訳詩の讃美歌七番を捧げ総会の議事が始められました。同窓会長交代と同窓会専任事務職員の新体制が承認され、池田守男理事長・院長のご挨拶を頂き、いよいよ船出の時となりました。

今年の総会には、日本で唯一のキリスト教主義私立聾学校である日本聾話学校教頭の森道興氏（奥様が同窓生）をお招きしました。聴覚障がい児の成長に音楽が果たす様子を、ハンドベルを奏しそに演奏する生徒さん達の映像とともにご紹介下さいました。その感動は続いてハンドベルと河野和雄先生のオルガン演奏へと移り、同窓生を中心とするメンバー一五名の素晴らしい演奏に時間も忘れて聞き入りました。



会場を移してのお茶会では、石川和子会長に花束の贈呈後、アーチを作り感謝をこめてお見送りしました。ご臨席下さいましたご来賓の皆様にご心より感謝申し上げます。

ガーネットハウス鳥居坂 (GHT)

六本木校地の片隅、花と緑に囲まれた静かな一画に、ガーネットハウス鳥居坂があります。学校と卒業生とをつなぐ懸け橋として、同窓会行事の準備や会報等の発送を行っています。宣教師館から移された暖炉のあるお部屋は少人数の会合に、2階はクラス会に利用できる広さです。詳細はお尋ね下さい。



〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院内  
Tel & Fax 03-3583-0772  
e-mail : dousokai-ght@toyoeiwa.ac.jp  
執務日時 月曜日～金曜日 10:00～16:30  
春・夏・冬休み休館（※学院に準ずる）

ガーネットハウス横浜 (GHY)

四季折々の自然を満喫できる横浜校地に遊びにいらっしませんか。ガーネットハウス横浜でのクラス会でしたら、小さなお子様がいらしても、周りにお気遣いなく楽しいひと時をお過ごしいただけます。皆様のご利用を心よりお待ちしております。



〒226-0015 横浜市緑区三保町32 東洋英和女学院大学内  
Tel : 045-922-9797 Fax : 045-922-9798  
e-mail : dousokai@toyoeiwa.ac.jp  
執務日時 月・水・木曜日 10:00～16:00  
春・夏・冬休み休館（※学院に準ずる）

# 英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.21

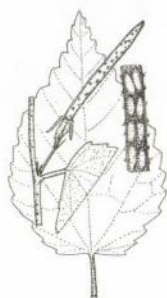
絵・文・写真：中池 敏之  
(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



ウバメガシ (横浜キャンパス)

ウバメガシ(姥目櫛、姥芽櫛、姥女櫛)

横浜キャンパスでは、いたる所で植栽されたこの木を見ることができる。もちろん、秋にはドングリがなる。目を枝に近づけると、あら不思議、大きなドングリの付いている枝の上の方に、小さなドングリを発見する。ということは、この大きなドングリ(写真参照)は、昨年受精して、一年半ほどかけて大きくなった、ということに気が付く。この木は、上等な炭の備長炭の原料であり、地域によっては、若芽をお茶の代用にしたり、正月の三が日の朝に枝を燃やして幸運を祈ったり、節分用の大豆を枝葉で炒ったりする。まことに、人々とは関係の深い木である。



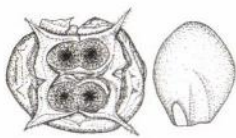
カラスノゴマ

葉や実の表面には星状毛がいっぱい。



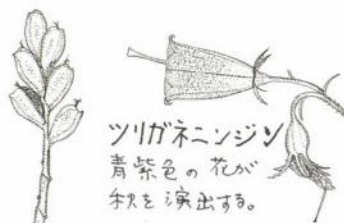
コブシ

熟してくるとタネは糸でぶら下がります。



トサミズキ

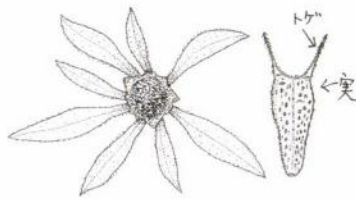
実からタネが勢よく飛び出す。



ツリガネニジソ  
青紫色の花が糸を染出す。

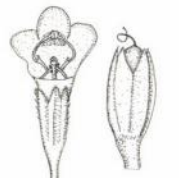
コゴメがヤツリ

小穂は熟すと稲穂に似る、黄色になる。



アメリカセンダングサ

花をとりまく葉(総苞)がミャレている。実にはトゲがある。



ウリクサ

花の中を覗くと、オシベがメシベのたぐひ(?)曲がる。



モッコク

タネの表面は小鳥を誘うのが、赤い色をしている。

東洋英和 楓の会 主催  
チャリティピアノコンサートのご案内

今年5月、母の会から中高部へスタインウェイピアノが寄贈されました。楓の会はそのお披露目かねて、ピアニストの仲道郁代さんをお招きし、チャリティコンサートを開催いたします。

- 日時 2010年10月30日(土)  
14:00~16:00
- 場所 中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
- チケット 2,000円



※チケット購入方法などの詳細はホームページ、または楓の会室までお問い合わせください。

〒106-8507 東京都港区六本木5-14-40  
東洋英和女学院法人事務局 楓の会室

TEL: 03-3583-3354

メールアドレス: kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

ホームページ: http://www.toyoeiwa.ac.jp/kaedenokai/

東洋英和女学院学院報 楓園 第61号

発行日: 2010年9月8日

編集: 広報委員会

発行: 学校法人 東洋英和女学院  
東京都港区六本木5-14-40  
TEL 03-3583-3325

メールアドレス

koho@toyoeiwa.ac.jp

ホームページアドレス

http://www.toyoeiwa.ac.jp



後援会常任役員

会長	横山 巖 (継続)
副会長	金子栄一 (継続)
	神谷直彌 (退任)
	小林 宏 (継続)
	石川 栄 (継続)
	小泉光人 (継続)
	櫻井 恵 (新任)
	岡田基宏 (継続)
会計監事	

後援会総会・役員会 ー 七月二日(金) ー  
二〇一〇年度後援会総会・役員会がANAインターコンチネンタルホテル東京にて、開催されました。後援会総会は、年に一度各部の後援会役員や保護者の皆様が教職員とともに一堂に会する機会です。出席者数は計二七六名でした。  
総会に先立ち役員会が行われ、①新役員②退任・新任の常任役員の承認と挨拶③二〇〇九年度決算報告及び二〇一〇年度予算案などが審議され、すべて承認されました。



役員会



総会

会終了後の懇親会では後援会会員同士が交流し、教職員の方々も交え、なごやかな歓談の時間を持りました。



懇親会にて。貴重な交流の時間を持りました

総会では横山巖後援会会長と池田守男理事長・院長の挨拶の後、常任役員を退任される神谷直彌氏へ学院より感謝状の授与がありました。そして、各部代表者の先生方より現状報告がありました。総会

後援会より